

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2016年第1四半期 決算説明資料

2016年5月10日発表
(2017年4月25日訂正)

取締役 常務執行役員 CFO
武藤 三郎

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社(前期末対比)

- 連結子会社：49社
+1社
昭光ハイポリマー株式会社

-
- 持分法適用会社：13社
増減なし

主要諸元

(期中平均)

	2015年1－3月	2016年1－3月	増減
■ 為替レート (円/US\$)	119.1	115.5	3.6 円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	47,000	34,300	△12,700
■ アルミ地金			
LME (US\$/T)	1,814	1,515	△299
国内市況 (千円/T)	308	231	△77

(国内市況価格は日本経済新聞掲載値)

※2015年12月期末レート120.6 円 2016年3月期末レート112.7 円 ⇒7.9円高

連結業績の概要

(億円)

	2015年1-3月	2016年1-3月	増減
売上高	1,919	1,560	△359
営業利益	38	29	△9
営業外損益	△11	△12	△1
金融収支	△7	△5	2
持分法投資利益	5	17	11
為替差損益	△9	△19	△10
その他	0	△4	△4
経常利益	27	17	△10
特別利益	0	0	0
特別損失	△152	△16	136
税金等調整前四半期純利益	△125	1	126
法人税等	△24	11	35
四半期純利益	△149	12	161
非支配株主に帰属する四半期純利益	73	△3	△76
親会社株主に帰属する四半期純利益	△76	9	85

特別損益の内訳

(億円)

	2015年1-3月	2016年1-3月	増減
■特別利益	0	0	0
■特別損失	△152	△16	136
●固定資産除売却損	△9	△7	2
●事業構造改善引当金繰入額	△8	△4	4
●貸倒引当金繰入額	△128	—	128
●その他	△7	△5	3
■特別損益	△151	△16	136

連結売上高差異内訳

(億円)

	2015年 1-3月	2016年 1-3月	増減	項目
石油化学	571	429	△142	オレフィン: 減収(ナフサ価格低下、数量小幅減: 誘導品定修) 有機: 減収(酢ビ・酢エチ: 定修により数量減、価格低下)
化学品	346	321	△24	基礎化学品: 減収(AN: 市況低下、 クロロプレンゴム: アジア向け数量減) 産業ガス: 小幅減収 情報電子化学品: 増収(数量増) 機能性化学品: 減収(フェノール樹脂事業譲渡)
エレクトロニクス	330	223	△107	HD: 減収(数量減) 化合物半導体: 減収(数量減) レアアース: 減収(数量減)
無機	157	124	△33	セラミックス: 減収(アルミナ数量減) 電極: 減収(市況低下)
アルミニウム	231	220	△11	圧延品: 小幅増収(コンデンサー用高純度箔: 数量増) 機能部材: 減収(自動車向け数量減) アルミ缶: 小幅増収(ハナキャン社: 数量増)
その他	395	348	△47	リチウムイオン電池材料: 増収(数量増) 昭光通商: 減収
調整額	△111	△105	6	
合計	1,919	1,560	△359	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2015年 1-3月	2016年 1-3月	増減	項目
石油化学	△17	15	33	オレフィン:増益(製品市況改善) 有機:増益(酢エチ:原料安)
化学品	21	25	4	基礎化学品:前年同期並み(アンモニア:増益、AN:減益) 産業ガス:増益 情報電子化学品:減益 機能性化学品:増益 発電事業:増益
エレクトロニクス	54	17	△37	HD:減益(数量減) 化合物半導体:減益(数量減) レアアース:減益(数量減、低価法)
無機	△3	△20	△17	セラミックス:減益(アルミナ数量減) 電極:減益(市況低下)
アルミニウム	2	2	1	圧延品:小幅増益(数量増) 機能部材:減益(自動車向け数量減) アルミ缶:増益(ハナキャン社:数量増)
その他	0	5	5	リチウムイオン電池材料:増益(数量増) 昭光通商:増益
調整額	△19	△17	3	
合計	38	29	△9	

連結貸借対照表

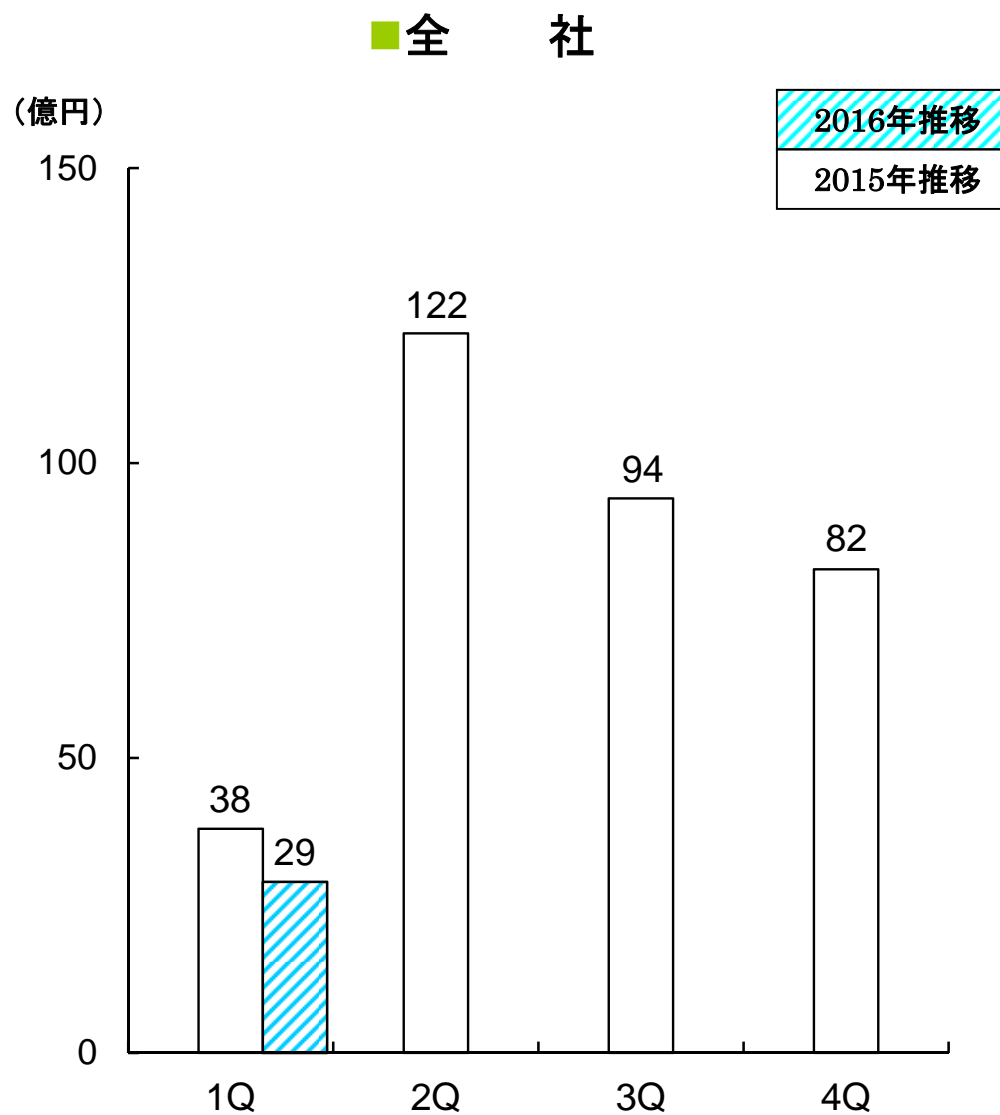
(億円)

資産	2015年 12月末	2016年 3月末	増減	負債・純資産	2015年 12月末	2016年 3月末	増減
現預金	641	626	△15	営業債務	1,037	886	△151
営業債権	1,351	1,116	△235	有利子負債	3,688	3,740	52
たな卸資産	1,059	1,036	△23	退職給付に係る負債	152	144	△8
その他	265	306	41	その他	1,446	1,384	△62
<u>流動資産計</u>	3,315	3,083	△232	<u>負債計</u>	6,324	6,154	△169
建物・構築物	815	793	△22	資本金	1,406	1,406	0
機械装置・運搬具	1,129	1,085	△45	資本剰余金	622	622	0
土地	2,519	2,518	△1	利益剰余金	552	521	△32
その他有形固定資産	560	581	21	自己株式	△102	△102	0
<u>有形固定資産計</u>	5,023	4,976	△47	<u>株主資本計</u>	2,478	2,447	△32
無形固定資産	123	119	△4	その他有価証券評価差額金	39	6	△33
投資その他の資産	944	923	△21	繰延ヘッジ損益	△3	△11	△8
(内、投資有価証券)	766	729	△36	為替換算調整勘定	186	109	△77
				土地再評価差額金	313	330	17
				退職給付に係る調整累計額	△48	△48	1
				<u>その他の包括利益累計額計</u>	487	386	△101
				非支配株主持分	116	113	△3
<u>固定資産計</u>	6,090	6,017	△73	<u>純資産計</u>	3,081	2,946	△136
資産合計	9,405	9,100	△305	負債・純資産合計	9,405	9,100	△305

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

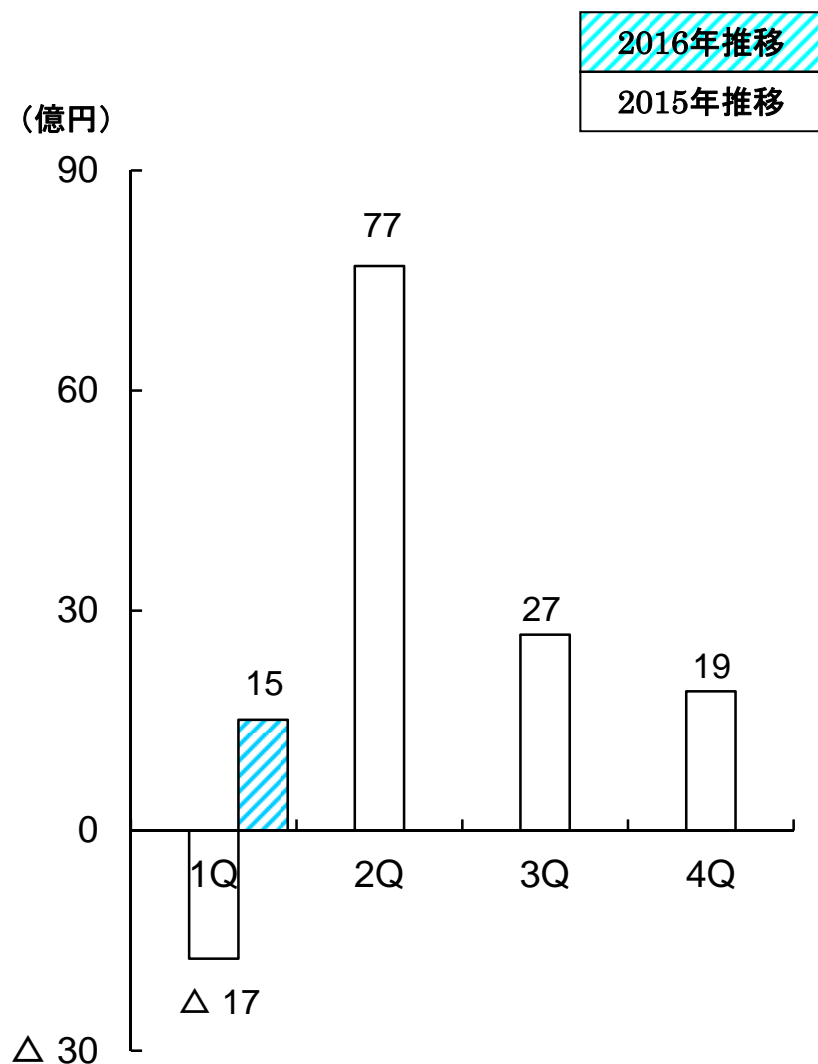
	2015年12月末	2016年3月末	増減
■ 総資産	9,405億円	9,100億円	△305億円
■ 有利子負債	3,688億円	3,740億円	52億円
■ D/Eレシオ	1.20倍	1.27倍	0.07p増
■ 自己資本比率	31.5%	31.1%	0.4p減

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

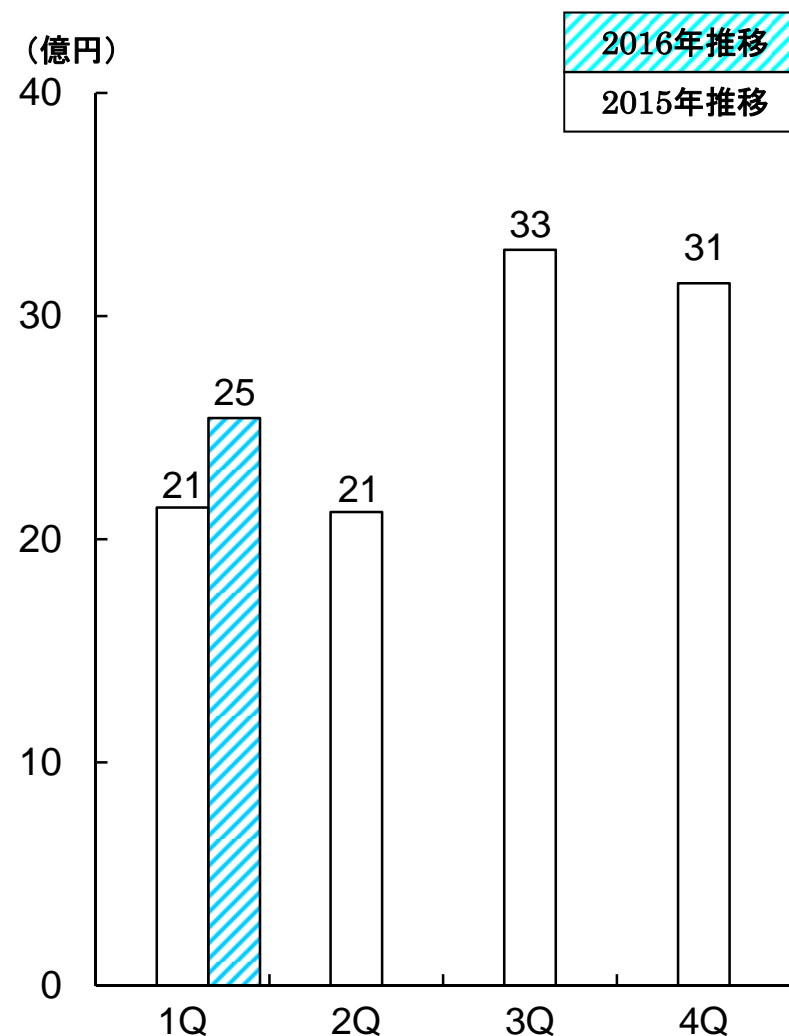


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■石油化学セグメント

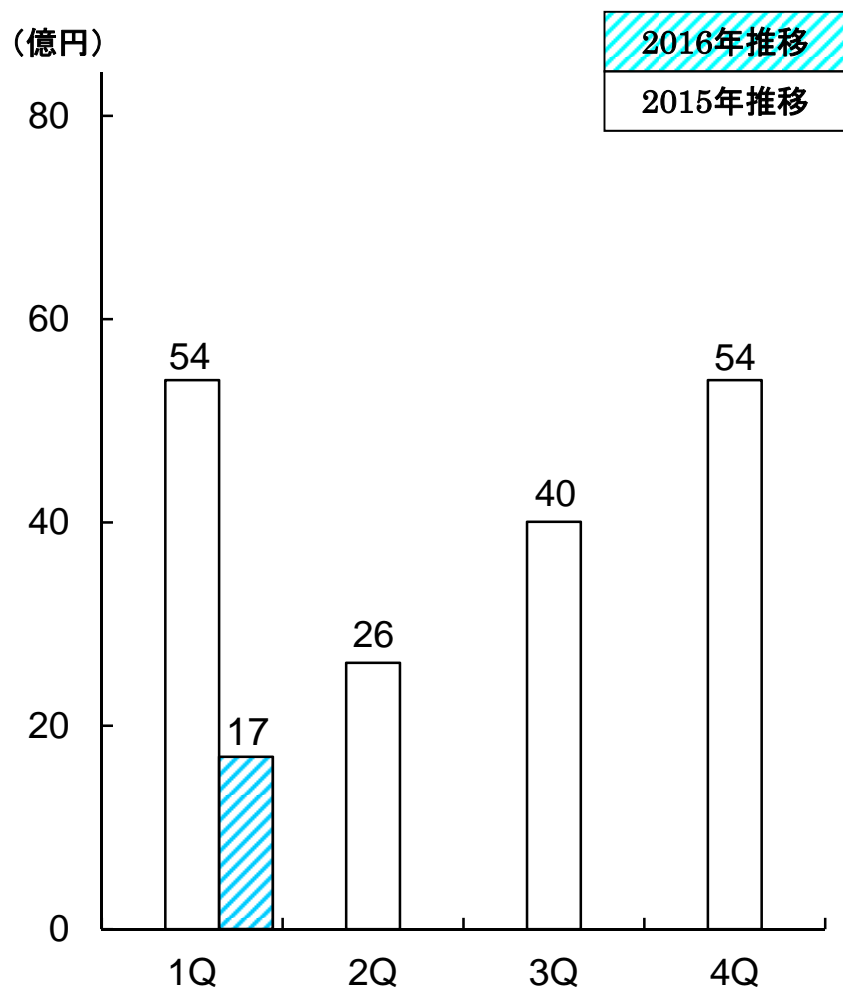


■化学品セグメント

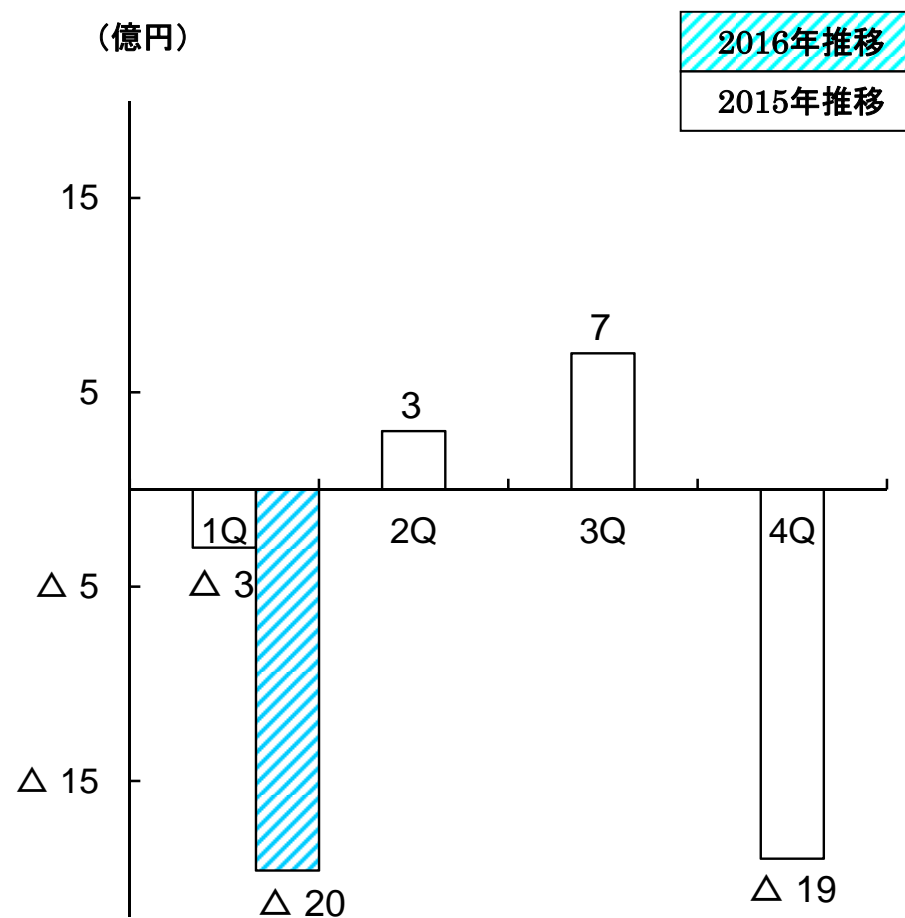


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■エレクトロニクスセグメント

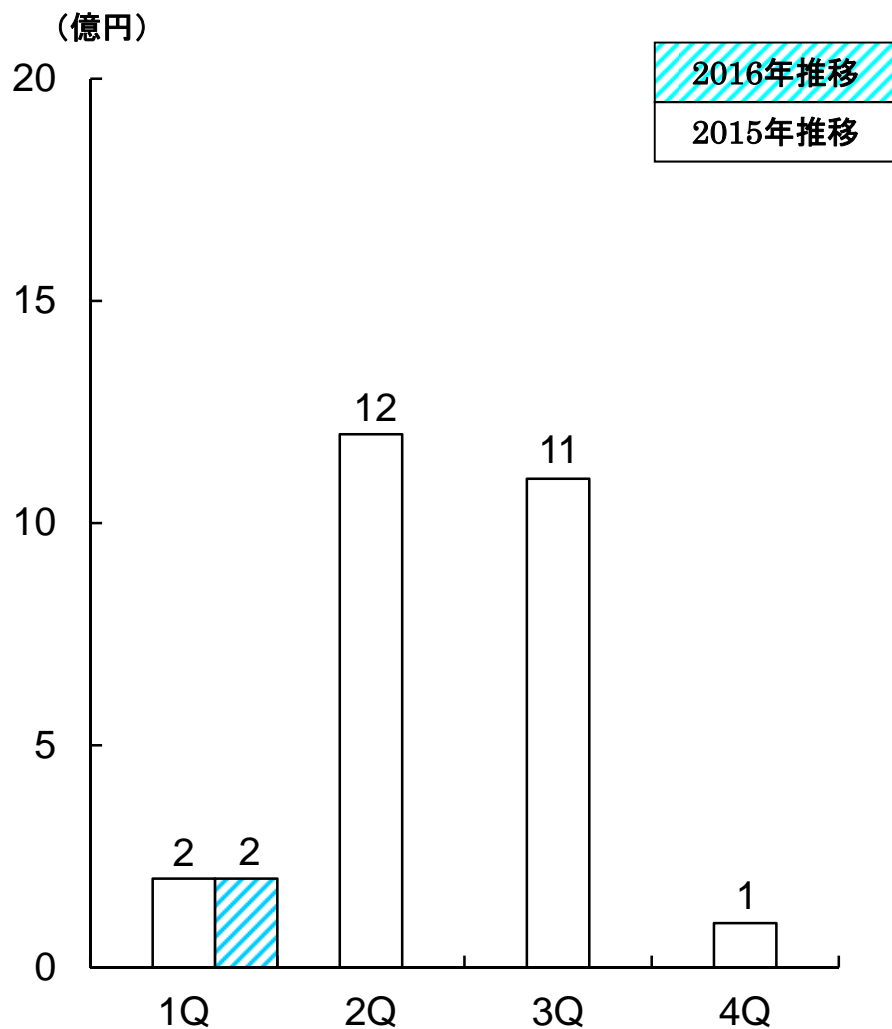


■無機セグメント

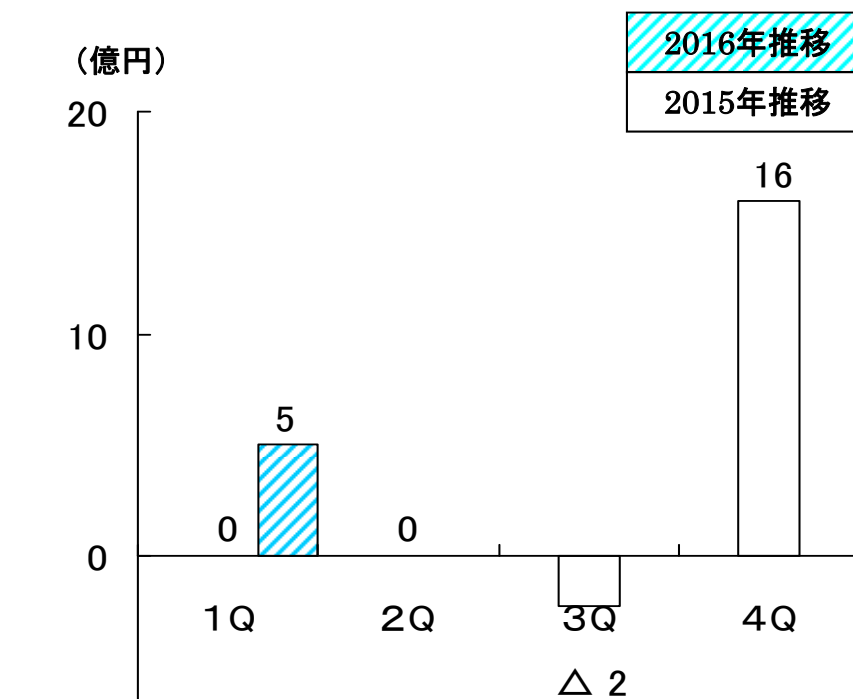


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



【全社施策】

● 株式併合および単元株式数の変更を決定

本年3月30日開催の第107回定時株主総会において、株式併合および単元株式数の変更について決定し、本年7月1日をもって、当社株式の売買単位を1,000株から100株に変更する。併せて、当社株式につき東京証券取引所が望ましいとしている投資単位の水準(5万円以上50万円未満)を維持することを目的として、株式併合(10株を1株に統合、発行可能株式総数を株式併合の割合に合わせて33億株から3億3千万株に減少)を実施する。

● 業績連動型株式報酬制度導入を決定

本年3月30日開催の第107回定時株主総会において、役員報酬制度を見直し、信託を活用した業績連動型株式報酬制度を導入することを決定した。

本制度は、社外取締役を除く取締役および執行役員の報酬と株式価値との連動性をより明確にし、中長期的な業績の向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的とする。なお、取締役会の諮問機関として過半数を社外取締役、社外監査役で構成する報酬諮問委員会を設け、取締役及び執行役員の報酬の決定にあたって、取締役会で本制度の導入を決議する前に、同委員会において審議を行っている。

● 日本政策投資銀行より最高ランクの「DBJ環境格付」を取得

(株)日本政策投資銀行の環境経営度の審査において最高ランクの格付を取得し、本年3月に同行より「DBJ環境格付」融資を受けた。

「DBJ環境格付」は、同行が開発した格付システムにより企業の環境経営度を評価し、優れた企業に対して融資条件を優遇する融資。今回、中長期の経営課題に基づく重要課題の特定、CSR調達改善の継続的な取り組みや化学物質の一元管理化、ダイバーシティ経営の積極的な推進、が評価された。

セグメント別トピックス

【化学品セグメント】

●高純度三塩化ホウ素の生産能力を增強

本年3月、電子材料用高純度ガスの一つである高純度三塩化ホウ素(BCl_3)について、設備增強により生産能力を従来比1.5倍に引き上げ、生産を開始した。

高純度三塩化ホウ素は、液晶パネルやシリコン半導体の製造工程で、アルミ配線のエッチングに使用される特殊ガス。近年、アルミ配線を使用する有機ELパネル(OLED)や低温ポリシリコン(LTPS)液晶パネルへの投資が相次いでおり、今後も安定的な需要が予想される。

「Project 2020+」において、電子材料用高純度ガスを成長加速事業に位置付けており、今後も拡大する世界の電子材料市場に迅速に対応し、事業強化・拡大を図っていく。

●「プラスチック製容器リサイクルによるアンモニア製造プロセス」がエコマークアワード2015銀賞を受賞

本年1月、「プラスチック製容器リサイクルによるアンモニア製造プロセス」において、(公財)日本環境協会が主催する「エコマークアワード2015銀賞」を受賞した。

今回受賞した製造プロセスは、ケミカルリサイクル手法(ガス化)により使用済みプラスチックから水素を取り出し、原料の一部に使用しアンモニアを製造するもの。

本プロセスは、製造プロセスで世界初の環境ラベルとして、昨年7月にエコマークを取得している。今回、技術革新性や資源循環の取り組み等を評価いただき、「銀賞」に選定された。

今後も環境にやさしい製品および製造プロセスの開発を進め、持続可能な社会への貢献に努めていく。

【化学品セグメント】

●電子材料向け放熱カーボンコート箔テープを開発

本年1月、電子材料用放熱テープであるカーボンコート箔テープ「HSシリーズ」のラインナップを拡充し、新製品のサンプル提供を開始した。

電子部品は小型化・高集積化により電気機器の単位面積当たりの発熱量が増え、製品寿命と信頼性に放熱技術が大きく影響している。「HSシリーズ」は、カーボンと金属を組み合わせた電子材料用テープで、熱放射性の高いカーボンが金属面の放熱を補うことで電気機器の温度上昇を抑えられ、打ち抜き・折り曲げ加工もしやすい特長がある。

今回開発した製品は、柔軟性を高めた改良版「HS-2500」と、銅と組み合わせた薄型版「HS-3000」で、金属層を軟質化または薄膜化したことにより従来品で課題であった3次曲面での耐性が向上した。優れた接着強度で、段差や曲面の多い電子部品の複雑な形状に合わせた貼付が可能となる。

PROJECT 2020+

